

参加者の活動紹介 1 一般社団法人PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会のご紹介

(一般社団法人 PMI 日本支部 SDGs スタートアップ研究分科会 アドバンスコースリーダー 歳弘浩三様)

一般社団法人PMI日本支部は1969年に米国ペンシルバニア州で設立されたプロジェクトマネジメントに関する非営利の専門家団体、Project Management Institute, Inc. (PMI) の日本での活動推進のため、1998年からPMI, Inc.の支部として、プロジェクトマネジメントの発展と普及に努めています。現在、日本国内のPMI会員14,000人およびPMP®等の資格者44,000人に向けた情報発信も行っています。PMI日本支部SDGsスタートアップ研究分科会は、「プロジェクトマネジメントの力で日本のSDGs事業の立ち上げ・推進に貢献する！」を目標にし、2019年に内閣府が設立した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」内に『SDGsスタートアップ研究分科会』を設けて、2019年からこれまで5年間に渡り、SDGsスタートアップ手法を活用してビジネスとして立ち上げるための支援活動を行ってきています。

多くの団体がSDGs事業の取り組みを始めようとしても、立ち上げ推進がなかなか効果的にできていないという課題認識を私達は持っています。その課題を解決するために、SDGs事業に即したプロジェクトマネジメント手法の開発と普及・促進を目的として分科会を設立しました。

参照：[SDGsスタートアップ研究会について - SDGsスタートアップ研究会 \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/)

主な活動内容

私たちはSDGsプロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際の法人のSDGsプロジェクトを支援する「アドバンスコース」を実施しています。

●**ベーシックコース**

SDGs事業立ち上げ・推進に即したアジャイルアプローチの『SDGsスタートアップ方法論』を研修・ワークショップ形式で体得できるコースを開講し、2019年から2022年までに延べ90近くの法人に研修・ワークショップを提供しています。

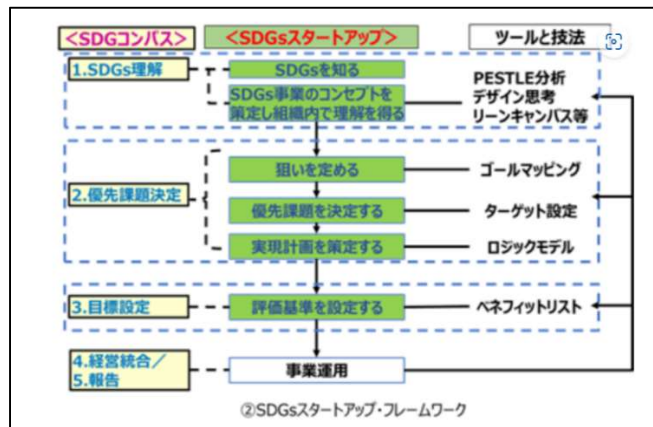
[ベーシックコース - SDGsスタートアップ研究会 \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/)

●**アドバンスコース**

ベーシックコースの修了法人を対象に、その法人が実際に実行されているSDGsプロジェクトに担当PMチームをアサインした伴走型のプロジェクトマネジメント支援を、2023年時点で舞鶴高専など7法人に対して行っています。

[アドバンスコース - SDGsスタートアップ研究会 \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/)

SDGs スタートアップ概要



舞鶴高専 SDGs スタートアップの事例

ビジネスモデルの考え方
 リーンキャンパス

作成団体名：舞鶴工業高等専門学校
 事業名：地域防災活動・教育 小川の水位監視システム
 作成日：2019年11月5日

2課題 Problem	4ソリューション Solution	3独自の価値提案 Unique Value Proposition	5持続可能な優位性 Unfair Advantage	1顧客セグメント Customer Segment
小川の水位監視システムの構築 防災活動の効率化	小川の水位監視システム 小川の水位監視システム 小川の水位監視システム	小川の水位監視システム 小川の水位監視システム 小川の水位監視システム	小川の水位監視システム 小川の水位監視システム 小川の水位監視システム	小川の水位監視システム 小川の水位監視システム 小川の水位監視システム
既存の代替品 Existence Alternatives	主要指標 Key Metric	5チャネル Channel	Early Adopters	
コスト構造 Cost Structure	収益の流れ Revenue Stream			

参加者の活動紹介 2 (京都工芸繊維大学 産学公連携推進センター プロジェクトディレクター 向井雅昭様)



京都工芸繊維大学では、グローバルな視野を持って工学・科学技術で地域の課題を解決できる国際高度専門技術者(地域Tech Leader)を育成するため、2016年に「地域創生Tech Program」を、学部課程の共通プログラムとして開設しています。

現在、地域や社会が直面している様々な課題は、限られた専門分野だけで解決できるものではなく、多分野の人材が相互に協働して解決に向けて取り組んでいく必要があります。

本プログラムでは、各自が工芸科学部に設置された教育プログラムによって教養や専門基礎を身に付けたうえで、京都府北部をフィールドとして、地域課題をテーマとした学習や地元企業でのインターンシップによる多様な実践的体験を積みまます。



1年次前期では「地域課題導入セミナーⅠ」において、京都府北部の自治体が抱える地域課題の解決にグループで取り組みます。

3年次後期に実施される「ものづくりインターンシップⅠ」では、京都府北部の企業・自治体での就業体験で、学生1人につき2社(1社あたり2週間で合計4週間)のインターンシップに取り組みます。

また、3年次後期に実施される「地域創生課題セミナーⅠ」では、京都府北部の企業等が抱える課題に対して、これまでに習得した各課程での専門性を生かし、より専門的かつ実践的な課題解決型学習(PBL)をグループで取り組みます。この授業においては、プロトタイプまで行うところが1年次と異なる点です。

このように京都府北部を中心とした活動を通じ、理工系のリーダー人材として必要な、地域社会・企業から求められている能力「コミュニケーション力、リーダーシップ、課題解決力」の修得を目指しています。



書評 第4回 (舞鶴高専 内海康雄特命教授)

書名 101デザインメソッド
革新的な製品・サービスを生む
「アイデアの工具箱」
著者名 ヴィジェイ・クーマー著、
渡部典子訳
出版社名 英治出版
出版年月 2015年 2月

デザイン・イノベーションを4つのプロセス(調査→分析→統合→実現)として表した上で、7つのモード(目的を見出す、コンテキストを知る、人々を知る、インサイトをまとめる、コンセプトを探求する、解決策を練る、製品・サービスを実現する)に分けて、それぞれの手法を説明しています。おそらく世の中にあるデザインメソッドがすべて含まれているように思います。類書はいまだ頻繁に出ていますが、この本のどこかに書いてあったという経験を2, 3度しています。

知りたいことがあれば、どのプロセスのモードにあるかを考えて、そこを読めばヒントが見つかります。